



サクラよ安らかに…

このコーナーを初アップし年も明けてまだ間もない1月上旬、1頭の雌のトラがひっそりと亡くなりました。平成19年年市民の方からの善意のご寄付により寄贈された2頭のトラのうちの1頭で名前をサクラと言います。もう1頭は雄のトラでアキラと言います。やっとかみねの山にも慣れ始め、2頭仲睦まじく寄り添う姿を来園者の方々に喜んでもらえるのを期待していた矢先の出来事でした。思えば、前兆はありました。平成19年の夏は記録的な猛暑となりましたが、動物たちもさすがにバテている様子で、その中にサクラも含まれていました。餌の食いつきが悪くなったのです。飼育の担当者や獣医たちとも相談しましたが暑さのせいだろうと様子をみながら餌の種類を換えたりしました。

その甲斐もあったのか、その後通常の状態に戻り交尾も確認されるなど安堵していましたが、師走の声を聞く頃また食欲減退が見られるようになりました。今度は餌の種類を換えてもだめです。そうしているうちに暮れも押し迫ったところ、サクラがなんと2頭の子を出産したのです。1頭は出産時死亡していましたがもう1頭は未熟で弱々しいながらも時々人間の赤ちゃんのように泣いています。体長は20センチ、体重500グラムぐらいでしょうか。以前かみねで出産したトラは体重1キログラムぐらいですから約半分。でも新しい生命の誕生です。私もここに来て初めての経験です。何とか頑張ってくれと、昼夜を問わず付きっきりでスタッフが手当てしました。しかし親からの栄養補給が十分でなかったのか二日後には本当に短いあつという間の生涯を終えてしまいました。一方の母親も出産の影響もあるのかますます衰弱が激しくなり、そのうち自分で立つて歩く事もできなくなりとうとう寝たきり状態となってしまいました。その間、点滴や抗生剤投与などを試みましたが薬石効なく年が明けた平成20年1月7日、7年の生涯に幕を閉じる事となってしまいました。わが子を産み落とし、そして後を追うように…。寄付を頂いた動物というだけでなく、お客様に喜んでもらえる動物園を目指して動物に接している職員としては本当につらい瞬間です。主のいない寝室はとても寂しいものです。

原因解明のため解剖したところ、腎臓周囲に異常が認められ菌血症を起こしていた事が分かりました。体に問題を抱えながらの出産というサクラにとってはつらい1年だったでしょう。もちろん人間なら症状を医者に話し、何らかの処置がなされるところですが動物にとってはそれもできません。もし野生であつたら自分で狩をする事もできずもっと早く亡くなっていたかもしれません。そう考えると本当に動物たちはいつもギリギリのところまで生きているんだという事を実感させられます。

前回、ゾウの目が怖い、という話をしましたがトラの目もそれに負けず劣らず冷徹で怖いものです。しかしそれは野生の中で生き抜いていく手段として自ずと備わっていたものなのではないでしょうか。でなければ群れで行動するライオンと違って単独で行動するトラの場合、まさに食肉目（ネコ目）最大の王者として君臨し得なかったはずです。しかしそうした王者の目も、衰弱し横たわったままのサクラには微塵も感じられず、むしろ哀願するような目でこちらを見ているだけです。その目は何かを訴えている目です。しかし私には何もできない。だからせめてその目を見続けるしかありませんでした。

サクラの死をきっかけに、改めて動物の目について考えさせられました。



「アキラとサクラ」

2008年2月5日

過去の一覧

[令和6年](#)

[令和5年](#)

[令和4年](#)

[令和3年](#)

[令和2年](#)

[令和元年](#)

[平成30年](#)

[平成29年](#)

[平成28年](#)

[平成27年](#)